

様式第7号ウ（教諭）

＜発達教育学部教育学科＞（認定課程：幼一種免）

（1）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	大学の学びに必要なアカデミックスキルを身に付けるとともに、教育の理念や幼児の心理、幼児の感性と表現の育ちといった幼稚園教諭を目指すための基礎的知識とあわせ、幼稚園教諭に求められる基本的スキルの一つである音楽に関わる基礎的技能的修得を目指す。また、外国語コミュニケーション、体育、情報機器の基本的操作や情報の扱いについて学び、教職に従事する者としての幅広い素養を修得する。こうした学修を通し、教職課程を履修する学生としての自覚と誇りを持つことを目標とする。
	後期	幼稚園教諭の意義と役割についての学びを通し、幼稚園教諭に求められる資質について自ら考え、幼稚園教諭を目指すものとしての責任と自覚を新たにすることを目標とする。また、幼児期の発達の特性と幼児の発達を促すための望ましい文化環境・文化財や運動あそびについての学びとあわせて、幼稚園教育の理念を体現する教育の内容および方法に関する基礎的知識を修得する。1年次終了時に教職課程履修記録を作成し、その学びを振り返ることにより、2年次の修得目標を明確にする。
2年次	前期	領域及び子どもの遊びと遊びを通した学びに関する科目での学びを通し、5つの「領域」についての理解を深め、小学校以上の学校教育とは異なる「遊びを通しての指導・学び」という幼稚園教育の特性をより深く理解する。 また、教育実習に向けた学修を通して、幼稚園・小学校での教育実習への意識や目標を明確化し、より一層、教職課程の学修に意欲的に取り組む姿勢を身に付けることを目標とする。
	後期	前期に引き続き、領域及び保育内容の指導法に関する科目の学びを拡げる。あわせて、教育課程の学修を通して、幼稚園教育要領に示された理念が各園の保育においてどのように具現化されるのか、教育課程および指導計画の作成について理解し、教育実習で活かせる知識を身に付けることを目指す。また、教育行政に関する学びを通し、幼稚園の在り方をより幅広く多面的に捉え、社会における幼稚園の意義や求められる役割について理解を深める。2年次終了時に教職課程履修記録を作成し、その学びを振り返ることにより、3年次の修得目標を明確にする。
3年次	前期	これまでの保育内容及びその指導法の学習で得た学びを教育実習で活かす。教育実習では、観察・参加・指導実習を通して、幼児理解を深めるとともに、幼児理解を基盤とした指導計画の作成から保育実践を経験し幼児教育の本質を理解する。あわせて、実習で得た事例を用いての保育研究の実践的な学びを通し、学究的な視点を持つより質の高い幼稚園教諭としての力を修得することを目標とする。また、実習で捉えた子どもの遊びの実態から、遊びのなかにある学びが小学校の教科学習にどのように結びつくかを捉え、幼少接続を念頭にいた幼稚園教育の指導について考え、幼稚園教育に求められる指導を理解する。
	後期	教育実習による理論と実践の往還による学修を通して、自らの成長と課題、教職の責任の重さややりがいを自覚し、学び続ける幼稚園教諭としての資質を身に付けることを目指す。また、多文化教育に関する学びを通し、グローバル化、ダイバーシティやジェンダー平等を目指す現代社会における幼児教育のあり方について考え、子ども同士がお互いを認め合い、ともに育ち合う教育を実現するための教育観を持つことを目指す。また、子どもの認知およびパーソナリティの発達の学びを通し、望ましい幼少接続を実現するための教育内容や方法を考える知識を修得する。3年次終了時には、教職課程履修記録を作成し、その学びを振り返ることにより、4年次の修得目標を明確にする。
4年次	前期	これまでの教職カルテをもとにした教職課程履修面談により、3年間の学修の振り返りとともに、自らの教職希望の意志を最終確認するとともに、幼稚園教諭採用試験対策講座や模擬保育に取り組む。そして、幼稚園教諭採用試験に臨むことにより、幼稚園教諭になるための自覚を高める。
	後期	教職課程の総まとめとして位置づけられている保育・教職実践演習の履修にあたっては、各学年の修了時に作成した教職課程記録を作成していることが必須要件になる。これまでの学修を総合的に振り返り、自らの課題を明らかにするとともに、幼稚園教諭として不足している専門的知識や技能についてその修得を目指す。また、4月から教職に就くものとして、教育者に求められる人間性、倫理観、子どもへの愛情といった部分についてもあらためて自己を省察し、幼稚園教諭としてふさわしい人間であることを自分自身で自覚できることを目標とする。

様式第7号ウ（教諭）

＜発達教育学部教育学科＞（認定課程：幼一種免）

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		保育内容の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	領域に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教育原論		音楽実技1	英語ⅠA1	
		教育心理学		子どもの感性と表現	英語ⅠA2	
				算数科教育内容論	運動と健康科学	
				体育科教育内容論	情報リテラシー	
		特別支援教育論		人権教育論		
	後期	教職論	子どもと表現	国語科教育内容論	英語ⅠB1	
		教育方法論（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む。）		生活科教育内容論	英語ⅠB2	
				児童文化学	スポーツ実践	
		保育内容総論		乳幼児の健康・運動あそび		
2年次	前期		子どもと健康	音楽科教育内容論	日本国憲法	
			子どもと言葉	図工科教育内容論		
				乳幼児の科学・造形あそび		
				道徳教育論		
	後期	子ども理解と教育相談	子どもと人間関係			
		保育・幼児教育課程論	子どもと環境	児童文化活動論		比較・国際教育論
		教育行政学				
		保育内容演習（言葉）				
		保育内容演習（表現）				
		保育内容演習（健康）				
	通年	教育実習論（幼・小）				海外教育フィールドワーク
		教育実習（幼・小）				
3年次	前期	保育内容演習（人間関係）		児童文化学実習		絵本論
		保育内容演習（環境）		特別活動及び総合的な学習の時間指導法		乳幼児の表現・音楽あそび
						保育実践研究2
	後期			多文化教育論		子どもの認知発達
						人形劇演習
						保育実践研究1
						パーソナリティ発達研究
						自然体験型環境教育
	通年	教育実習論（幼・小）				
		教育実習（幼・小）				
4年次	前期					
	後期	保育・教職実践演習				

様式第7号ウ

＜発達教育学部教育学科＞（認定課程：小一種免）

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教育の理念、子どもの心理、特別支援教育、教科の専門的事項に関して学ぶとともに、人権教育、外国語コミュニケーション、体育、情報機器の操作を学び、教職に関する基礎的理解と素養を修得する。これらの学修を通して、今日の教育の現状や課題等を理解するとともに、教職課程履修の意味を理解し、教職を志す意識を確立することを目標とする。
	後期	教職の意義と役割、教育方法、教科指導に関して学ぶとともに、教科の専門的事項に関する学びを深める。また、外国語コミュニケーション、体育を学び、教職に関する基礎的理解と素養を修得する。これらの学修を通して、子供の成長に関わる教職の意義と責任を理解し、「教えること」と「学ぶこと」の基本的関係等、教育学の基礎理念を身につけ、目指す教師像を確立していくことを目標とする。1年次終了時に教職課程履修記録を作成し、その学びを振り返ることにより、2年次の修得目標を明確にする。
2年次	前期	教科指導に関する学び及び教科の専門的事項に関する学びを深めると同時に、日本国憲法を学び、教職に関する基礎的・基本的理解と素養を修得する。また、教育実習に向けた事前指導を始め、附属小学校において授業観察を行う。これらの学修を通して、教育実習に向けた心構えをもち、学習指導に関する基礎的・基本的な知識・技能及び教科指導におけるICT活用指導力の基礎を身につけることを目標とする。
	後期	教科指導に関する学びをさらに深め、教職に関する基礎的・基本的理解を修得する。また、附属小学校における教育実習と事後指導、学修支援ボランティア等の教育活動を行う。希望者は、海外の教育機関への視察等を含む海外研修に参加する。これらの理論と実践の往還による学修を通して、子供理解を深め、教材研究力、人間関係形成力等の資質・能力を身につけることを目標とする。2年次終了時に教職課程履修記録を作成し、その学びを振り返ることにより、3年次の修得目標を明確にする。
3年次	前期	特別活動及び総合的な学習の時間、生徒指導に関与し、より専門的な教科指導に関する授業実践演習や通常学級における特別支援及びユニバーサルデザイン教育について学び、教職に関する発展的な深い理解を修得する。さらに、実習協力校における小学校教育実習、学修支援ボランティア等の教育活動を行う。これらの理論と実践の往還による学修を通して、教科指導及び生徒指導に関する授業実践力及びICT活用指導力を身につけることを目標とする。
	後期	進路指導に関して学ぶとともに、より専門的な教科指導に関する授業実践演習やリフレクション等について学び、教職に関する発展的な深い理解を修得する。また、実習協力校における小学校教育実習と事後指導、学修支援ボランティア等の教育活動を行う。これらの理論と実践の往還による学修を通して、自らの成長と課題、教職の責任の重さややりがいを実感し、学び続ける教員としての資質を身につけることを目標とする。3年次終了時には、教職課程履修記録を作成し、その学びを振り返ることにより、4年次の修得目標を明確にする。
4年次	前期	教職課程面談により、自らの教職志望を最終確認する。教員採用試験対策講座や模擬授業・場面指導に取り組み、教員採用試験を受験することによって、教師になるための自覚を高める。また、実習協力校における特別支援学校や中学校での教育実習を行う。これらの理論と実践の往還による学修を通して、これまでの教職課程での学びを相互に関連付けた総合的な理解へと高め、学びの連続性の視点を考慮した質の高い教材研究力・授業実践力を身につけることを目標とする。
	後期	4年間にわたる教職課程の総まとめとしての教職実践演習により、自己の課題を自覚し、さらに必要な知識・技能等を向上させることにより、豊かな人間性と教育的愛情、教職における責任感と使命感、子供の発達や教科指導に関する専門的理解と実践力、さらには学び続ける教師としての資質・能力を総合的に身につけ、教職に就くための自己を確立することを目標とする。本学の教員養成理念に照らして最終確認を行い、教職課程を修了する。

様式第7号ウ（教諭）

＜発達教育学部教育学科＞（認定課程：小一種免）

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教育原論	算数科教育内容論	人権教育論	運動と健康科学	
		教育心理学	体育科教育内容論		英語ⅠA1	
		特別支援教育論			英語ⅠA2	
					情報リテラシー	
	後期	教職論	国語科教育内容論		スポーツ実践	
		教育方法論（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む。）	生活科教育内容論		英語ⅠB1	
			社会科教育内容論		英語ⅠB2	
		算数科教育方法論			英語ⅠB2	
		体育科教育方法論				
2年次	前期	教育課程論	音楽科教育内容論		日本国憲法	教育史
		道德教育論	図工科教育内容論			
		国語科教育方法論	理科教育内容論			
		社会科教育方法論	家庭科教育内容論			
		生活科教育方法論	外国語科教育内容論			
	後期	教育行政学				
		音楽科教育方法論（小中）				教育哲学
		理科教育方法論				比較・国際教育論
		図工科教育方法論				
		家庭科教育方法論				
		外国語科教育方法論（小中）				
	通年	教育実習論（幼・小）				海外教育フィールドワーク
		教育実習（幼・小）				
3年次	前期	特別活動及び総合的な学習の時間指導法				授業実践演習1
		生徒指導論（生徒指導と教育相談）				通常の学級の特別支援教育
						ユニバーサルデザイン教育論
	後期	進路指導論				授業実践演習2
						教育のリフレクション
						自然体験型環境教育
	通年	教育実習論（幼・小）				
		教育実習（幼・小）				
4年次	前期					
	後期	教職実践演習				

様式第7号ウ

＜発達教育学部教育学科＞（認定課程：中一種免（音楽））

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	アカデミックスキルを修得し、音楽の表現や理解のための基礎知識や技術を身に付ける。また、授業を通じて今日の教育の現状や課題等を学び、教職課程の意味を理解し、教職を志す意識を確立することにより、教職課程を履修する学生としての自覚と誇りを持つことを目標とする。また、教職科目を履修する中で教員としての資質や適性について考えながら、更に、教職に関する基礎的素養として、外国語コミュニケーション、情報機器の操作などについても学び、幅広いスキルを修得することを目指す。
	後期	音楽の理論と歴史に関する基礎知識や、ピアノ、声楽、管楽器等の基礎的技術を身に付ける。教職論を学び、教師を目指すことの意義、教師としての責任や、「教えること」と「学ぶこと」の基本的関係を考え、自らの進むべき方向性を徐々に確立していくことを目標とする。また、教職課程履修記録を作成し、より充実した履修継続に向けた自らの意志を確認する。
2年次	前期	教育課程論等の履修とともに、音楽理論、合唱、器楽など、各種のより専門的な内容の授業を受け、音楽の基礎的知識や技術を更に高めて確かなものにする。プレゼンテーション、レポートの作成、発声法の習得、演奏実践などを通して、幅広い表現力を培うとともに、現在の学校や生徒の状況について主体的に学ぶことを目標とする。また、音楽科の教育法を通して、中学校音楽科についての基礎知識・基礎技能を身に付けることを目指す。
	後期	前期の学びに加えて、小中接続を意識した音楽科教育方法論で音楽の指導法の学びを開始する。声楽、合奏などを通して、音楽の持つ様々な特性と音楽教育に関する知識や技術を高めていくとともに、現在の学校や生徒の状況について主体的な学びを深めることを目標とする。また、前期に実施した教職履修面談において自らの適性を確認した上で、介護等体験に向けた主体的対話的で深い学びや取り組みを目指す。2年次終了時に教職課程履修記録を作成し、その学びを振り返ることにより、3年次の修得目標を明確にする。
3年次	前期	中学校音楽科の指導法の学びを深め、指揮等の科目を履修するとともに、音楽教育で取り扱う内容を理解し身に付けることを目標とする。更に、創造的な音楽科授業を展開するための専門知識として、音楽教育史や音楽社会学を学び、自らの適性や志向に従ってゼミでの研究を開始する。また、教育課程における生徒指導や進路指導の意義について学びを深めていくことを目指す。
	後期	前期に引き続き、音楽のもつ様々な特性と音楽教育に関する、より専門的な内容を修得しながら、中高連携、中高接続について理解しながら実践的な能力を身に付けることを目標とする。作曲等の授業を通して、学校現場での創作や編曲、アンサンブルのスキルを高めることで、次年度に行う教育実習への準備をする。また、ゼミでの学びを通して、分析力や演奏力など総合的な音楽力を養っていくことを目標とする。3年次終了時には、教職課程履修記録を作成し、その学びを振り返ることにより、4年次の修得目標を明確にする。
4年次	前期	教育実習を行い、それによって授業はもとより生徒指導など、学校現場での経験から多くを学び、教師に求められる能力や心構えを明確に意識する。同時に、音楽教育の前提となる音楽の表現力や理解力をいっそう高めることを目標とする。また、教育実習の事後指導や教職履修面談を通して、教育に携わる意志を明確にし、教員採用試験に向けて知識や実践力を高めていくことを目指す。
	後期	4年間にわたる教職課程の総まとめとしての教職実践演習により、自己の課題を自覚し、必要な知識・技能を向上させることを目標とする。豊かな人間性と教育的愛情、教職における責任感と使命感、生徒の成長や音楽科教育に関する専門的理解と実践力、更には、学び続ける教師としての資質・能力を総合的に身に付け、教職に就くための自己を確立することを目指す。本学の教員養成理念に照らして最終確認を行い、教職課程を修了する。

様式第7号ウ（教諭）

＜発達教育学部教育学科＞（認定課程：中一種免（音楽））

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
1年次	前期	教育原論	音楽史1(西洋)	声楽実技Ⅰ	運動と健康科学	
		教育心理学		ピアノ実技Ⅰ	英語1A1	
		特別支援教育論		音楽理論1	英語1A2	
				人権教育論		
	後期	教職論	ソルフェージュ	声楽実技Ⅱ	情報リテラシー	
		教育方法論(情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む。)	音楽史2(日本及び民族)(日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む)	ピアノ実技Ⅱ	スポーツ実践	
					英語ⅠB1	
			音楽理論2		英語ⅠB2	
2年次	前期	道德教育論	合唱	音楽理論3	日本国憲法	教育史
		教育課程論	器楽基礎(伴奏並びに和楽器を含む)			ヴォイス・トレーニング
		音楽科教育法1				
	後期	教育行政学	声楽基礎(日本の伝統的な歌唱を含む)	音楽理論4		教育哲学
		音楽科教育方法論(小中)	合奏			比較・国際教育論
3年次	前期	特別活動及び総合的な学習の時間指導法	指揮法			授業実践演習1
		生徒指導論(生徒指導と教育相談)				通常の学級の特別支援教育
		音楽科教育法2				ユニバーサルデザイン教育論
						音楽教育概論
						音楽社会学
	後期	進路指導論	作曲法(編曲法を含む)			授業実践演習2
		音楽科教育法3				教育のリフレクション
						自然体験型環境教育
						音楽心理学
						音楽アンサンブル
4年次	前期					
	後期	教職実践演習				
	通年	教育実習論				
		中学校教育実習				
		教育実習				

様式第7号ウ

＜発達教育学部教育学科＞（認定課程：高一種免（音楽））

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	アカデミック・スキルを修得し、音楽の表現や理解のための基礎知識や技術を身につけることを目指すとともに、外国語コミュニケーション、情報機器の操作などについても学び、幅広いスキルを修得することを目指す。また今日の教育の現状や課題等を学び、教職課程履修の意味を理解し、教職を志す意識を確立することにより、教職課程を履修する学生としての自覚と誇りを持つこと、および教員としての資質や適性について考えることを目標とする。
	後期	音楽の理論と歴史に関する基礎知識や、ピアノ、声楽、管楽器等の基礎的技術を身につけることを目指す。教職論を学び、教職を目指すことの意義、教師としての責任や、「教えること」と「学ぶこと」の基本的関係を考え、自らの進むべき方向性を確立することを目指す。1年次終了時に教職課程履修記録を作成し、その学びを振り返ることにより、2年次の修得目標を明確にする。
2年次	前期	教育課程論の履修とともに、音楽理論、合唱、各種器楽演奏など、専門的内容の授業を受け、音楽の基礎的な知識や技術を確かなものにするを目指す。同時に、プレゼンテーション、レポートの作成、発声法の修得、演奏実践を通して幅広い表現力を培う。音楽科教育法を通して高等学校芸術科音楽についての基礎知識・基礎技能を身につけるとともに、現在の学校や生徒の状況について主体的に学ぶことを目標とする。
	後期	前期の学びに加えて、声楽演奏、合奏、音楽文化に関する各種講義を通して、音楽のもつ様々な特性と音楽教育に関する知識や技術を高めることを目指す。同時に、現在の学校や生徒の状況について主体的な学びを深め、自らの適性を確認した上で、介護等体験に向けて主体的に学び取り組むことを目標とする。2年次終了時に教職課程履修記録を作成し、その学びを振り返ることにより、3年次の修得目標を明確にする。
3年次	前期	指揮法、和楽器実技を履修するとともに、音楽教育で取り扱う内容を理解し身につけることを目指す。演奏技能を高めるとともに、創造的な音楽科授業を展開するための専門知識として音楽教育史や音楽社会学を学び、自らの適性や志向に従ってゼミでの研究を開始することを目指す。また、教育課程における生徒指導や進路指導の意義等について学びを深めていくことを目指す。
	後期	前期に引き続き、音楽のもつ様々な特性と音楽教育に関する高次の専門性を修得することを目指す。音楽科教育法で高等学校芸術科音楽についての学びを深め、作曲法やアンサンブルの授業を通して、学校現場での創作や編曲のスキルを高めることで、次年度に行う教育実習への準備をする。また音楽心理学やゼミでの研究を通して、演奏技能とともに思考・分析力を総合的に養うことを目指す。3年次終了時には、教職課程履修記録を作成し、その学びを振り返ることにより、4年次の修得目標を明確にする。
4年次	前期	教育実習を行い、それによって授業はもとより生徒指導など、学校現場での経験から多くを学び、高等学校の音楽科教諭に求められる能力や心構えを明確に意識することを目指す。さらに教育実習の事後指導や教職履修面談等を通して、教育に携わる意志を明確にし、教員採用試験に向けて知識や実践力を高めていく。また音楽教育の前提となる音楽の表現力や理解力をいっそう高めることを目標とする。
	後期	4年間にわたる教職課程の総まとめとしての教職実践演習により、自己の課題を自覚し、必要な知識・技能を向上させることを目標とする。豊かな人間性と教育的愛情、教職における責任感と使命感、生徒の成長や音楽科教育に関する専門的理解と実践力、更には、学び続ける教師としての資質・能力を総合的に身に付け、教職に就くための自己を確立することを目指す。本学の教員養成理念に照らして最終確認を行い、教職課程を修了する。

様式第 7 号ウ（教諭）
＜発達教育学部教育学科＞（認定課程：高一種免（音楽））
（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教育原論	音楽史1(西洋)	声楽実技Ⅰ	運動と健康科学	
		教育心理学		ピアノ実技Ⅰ	英語1A1	
		特別支援教育論		音楽理論Ⅰ	英語1A2	
				人権教育論		
	後期	教職論	ソルフェージュ	声楽実技Ⅱ	情報リテラシー	
		教育方法論(情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む。)	音楽史2(日本及び民族)(日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む)	ピアノ実技Ⅱ	スポーツ実践	
					英語ⅠB1	
2年次	前期		音楽理論2		英語ⅠB2	
		教育課程論	合唱	音楽理論3	日本国憲法	教育史
		音楽科教育法1	器楽基礎(伴奏並びに和楽器を含む)	道徳教育論		ヴォイス・トレーニング
	後期		音楽文化特論1(西洋)			
		教育行政学	声楽基礎(日本の伝統的な歌唱を含む)	音楽理論4		教育哲学
			合奏			比較・国際教育論
			音楽文化特論2(日本及び民族)(日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む)			
3年次	前期	特別活動及び総合的な学習の時間指導法	指揮法	和楽器実技Ⅰ		授業実践演習1
		生徒指導論(生徒指導と教育相談)				通常の学級の特別支援教育
		音楽科教育法2				ユニバーサルデザイン教育論
						音楽教育概論
						音楽社会学
	後期	進路指導論	作曲法(編曲法を含む)			授業実践演習2
		音楽科教育法3				教育のリフレクション
						自然体験型環境教育
						音楽心理学
						音楽アンサンブル
4年次	前期					
	後期	教職実践演習				
	通年	教育実習論				
		教育実習				

様式第7号ウ

<心理共生学科> (認定課程: 中一種免(保健))

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	大学生としての基礎能力及び教員を目指すための基本的資質の育成を目指し組織されたカリキュラムから、すべての学生が心理共生学科の学生としての自覚と誇りを持てることを目標とする。 また、教職課程履修の意義を認識し、自らの積極的な教職志望の意志を吟味するとともに、教育の理念及び歴史・思想並びに生徒の心身の発達及び学習過程に関する基礎知識を修得し、教職を志す意識の確立を目指す。 更に、教職に関する基礎的素養として、情報機器の操作を学び、修得する。
	後期	教職を目指すことの意義、教師としての責任、「教えること」と「学ぶこと」の基本的関係等、教育学の基礎理念を身につけ、自らの進むべき方向性を徐々に確立していくことを目標とする。 また、教職に関する基礎的素養として、外国語コミュニケーション、体育を学び、修得する。 なお、1年次終了時において教職課程履修記録を作成し、教職課程担当教員との個別面談により教職課程履修継続の意志を自ら確認する。
2年次	前期	学習指導要領を基準とした教育課程の意義や編成方法、教科「保健」の目標や全体構造、教育方法の基礎的理論を理解すると同時に、学校における道徳教育の意義を理解する。 また、日本国憲法の全体像や人権についての理解を深め、教職に就くにあたっての基盤を固めると同時に、教科の専門領域に関する知識を修得する。 さらに、学校教育現場を知るための体験としてスクールボランティア等に自主的に参加する。
	後期	保健科教員として必要な専門的知識を修得すると同時に、教育や心理・福祉分野における諸問題の存在を理解する。 また、特別の支援を必要とする生徒に対する理解を深め、特別支援教育に関する制度や教育課程、教育的ニーズ、支援の方法等を理解する。 年度末の教職課程履修面談において自らの適性を確認し、教職課程履修継続を再確認したうえで、介護等体験に向けた主体的取組ができていることを目標とする。
3年次	前期	家庭・学校・地域で発生する諸問題に対して援助できる専門的な技術を修得し、基礎的理論と学校現場における応用技術とを想定した実践的な学習経験を積み重ねる。 また、教育課程における生徒指導の意義や原理、学校における生徒指導の進め方や教育相談の意義と理論を理解する。 更に、スクールボランティアへの参加などを通じて、学校教育に参画する意識を高めたうえで、4年次の教育実習に向け、教育実習の準備を行うと同時に、介護等体験により、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深める。
	後期	教科「保健」に関する専門的な知識や学習指導理論を理解し、具体的な授業を想定した学習指導案の作成方法等を身につけると同時に、学校における特別活動及び総合的な学習の時間の意義及び内容、学校と地域との連携、学校安全、進路指導・キャリア教育の意義等について理解する。 教職課程担当教員による履修面談により、教職課程及び教育実習の意義とその責任を自覚したうえで、意欲的に教育実習に臨むことができる準備ができていることを目標とする。
4年次	前期	協力実習校における教育実習を通して学校教育の実際を体験的、総合的に理解し、実践的な能力を身につけるとともに、教員免許取得までにさらに修得すべき知識・技能を理解する。 教育実習の事後指導や教職課程面談により、自らの教職志望を最終確認するとともに、教育専門職である教師を多面的に理解し、教育現場に進んでいこうとする心構えができていることを目標とする。
	後期	4年間にわたる教職課程での学びの最終段階として教職実践演習を履修して、自己の課題を自覚し、さらに必要な知識・技能等を補てんすることにより、教員として求められる使命感や責任感、教育的愛情、社会性や対人関係能力、生徒理解や学級経営、教科の指導力等を身につける。 本学の教育理念及び教員養成理念に照らして最終確認を行い、教職課程を修了し、学位を取得する。

様式第7号ウ（教諭）

<心理共生学科>（認定課程：中一種免（保健））

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
1年次	前期	教育原論	解剖生理学		運動と健康科学	心理学と心理的支援
					英語ⅠA1	ソーシャルワーク概論
					英語ⅠA2	学校保健概論
					情報リテラシー	
	後期	教職論	人体生理学		スポーツ実践	心理学概論
		教育心理学	臨床医学概論		英語ⅠB1	社会福祉原論
					英語ⅠB2	
2年次	前期	教育課程論	学校保健	人権教育論	日本国憲法	看護学Ⅰ
		道徳教育論				微生物学
		教育方法論（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む。）				免疫学
		保健科教育法1				
	後期	特別支援教育論	栄養学			看護学Ⅱ
		保健科教育法2	精神保健Ⅰ			
			救急処置及び看護法			
3年次	前期	生徒指導論（生徒指導と教育相談）	公衆衛生学			スクールソーシャルワーク論
		特別活動及び総合的な学習の時間指導法	精神保健Ⅱ			学校救急処置
		保健科教育法3				
	後期	教育行政学	衛生学			スクールソーシャルワーク演習
		進路指導論	小児保健			薬理概論
		保健科教育法4				
4年次	前期					
	後期	教職実践演習（中・高）				
	通年	教育実習論				
		教育実習				
		中学校教育実習				

様式第7号ウ

<心理共生学科> (認定課程: 高一種免(保健))

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	大学生としての基礎能力及び教員を目指すための基本的資質の育成を目指し組織されたカリキュラムから、すべての学生が心理共生学科の学生としての自覚と誇りを持てることを目標とする。 また、教職課程履修の意義を認識し、自らの積極的な教職志望の意志を吟味するとともに、教育の理念及び歴史・思想並びに生徒の心身の発達及び学習過程に関する基礎知識を修得し、教職を志す意識の確立を目指す。 更に、教職に関する基礎的素養として、情報機器の操作を学び、修得する。
	後期	教職を目指すことの意義、教師としての責任、「教えること」と「学ぶこと」の基本的関係等、教育学の基礎理念を身につけ、自らの進むべき方向性を徐々に確立していくことを目標とする。 また、教職に関する基礎的素養として、外国語コミュニケーション、体育を学び、修得する。 なお、1年次終了時において教職課程履修記録を作成し、教職課程担当教員との個別面談により教職課程履修継続の意志を自ら確認する。
2年次	前期	学習指導要領を基準とした教育課程の意義や編成方法、教科「保健」の目標や全体構造、教育方法の基礎的理論を理解する。 また、日本国憲法の全体像や人権についての理解を深め、教職に就くにあたっての基盤を固めると同時に、教科の専門領域に関する知識を修得する。 さらに、学校教育現場を知るための体験としてスクールボランティア等に自主的に参加する。
	後期	保健科教員として必要な専門的知識を修得すると同時に、教育や心理・福祉分野における諸問題の存在を理解する。 また、特別の支援を必要とする生徒に対する理解を深め、特別支援教育に関する制度や教育課程、教育的ニーズ、支援の方法等を理解する。 年度末の教職課程履修面談において自らの適性を確認し、教職課程履修継続を再確認する。
3年次	前期	家庭・学校・地域で発生する諸問題に対して援助できる専門的な技術を修得し、基礎的理論と学校現場における応用技術とを想定した実践的な学習経験を積み重ねる。 また、教育課程における生徒指導の意義や原理、学校における生徒指導の進め方や教育相談の意義と理論を理解する。 更に、スクールボランティアへの参加などを通じて、学校教育に参画する意識を高めたうえで、4年次の教育実習に向け、教育実習の準備を行う。
	後期	教科「保健」に関する専門的な知識や学習指導理論を理解し、具体的な授業を想定した学習指導案の作成方法等を身につけると同時に、学校における特別活動及び総合的な学習の時間の意義及び内容、学校と地域との連携、学校安全、進路指導・キャリア教育の意義等について理解する。 教職課程担当教員による履修面談により、教職課程及び教育実習の意義とその責任を自覚したうえで、意欲的に教育実習に臨むことができる準備ができていることを目標とする。
4年次	前期	協力実習校における教育実習を通して学校教育の実際を体験的、総合的に理解し、実践的な能力を身につけるとともに、教員免許取得までにさらに修得すべき知識・技能を理解する。 教育実習の事後指導や教職課程面談により、自らの教職志望を最終確認するとともに、教育専門職である教師を多面的に理解し、教育現場に進んでいこうとする心構えができていることを目標とする。
	後期	4年間にわたる教職課程での学びの最終段階として教職実践演習を履修して、自己の課題を自覚し、さらに必要な知識・技能等を補てんすることにより、教員として求められる使命感や責任感、教育的愛情、社会性や対人関係能力、生徒理解や学級経営、教科の指導力等を身につける。 本学の教育理念及び教員養成理念に照らして最終確認を行い、教職課程を修了し、学位を取得する。

様式第7号ウ（教諭）

<心理共生学科>（認定課程：高一種免（保健））

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教育原論	解剖生理学		運動と健康科学	心理学と心理的支援
					英語ⅠA1	ソーシャルワーク概論
					英語ⅠA2	学校保健概論
					情報リテラシー	
	後期	教職論	人体生理学		スポーツ実践	心理学概論
		教育心理学	臨床医学概論		英語ⅠB1	社会福祉原論
					英語ⅠB2	
2年次	前期	教育課程論	微生物学	人権教育論	日本国憲法	看護学Ⅰ
		教育方法論（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む。）	学校保健	道徳教育論		免疫学
		保健科教育法1				
	後期	特別支援教育論	栄養学			看護学Ⅱ
		保健科教育法2	精神保健Ⅰ			
			救急処置及び看護法			
3年次	前期	生徒指導論（生徒指導と教育相談）	公衆衛生学			スクールソーシャルワーク論
		特別活動及び総合的な学習の時間指導法	精神保健Ⅱ			学校救急処置
		保健科教育法3				
	後期	教育行政学	衛生学			スクールソーシャルワーク演習
		進路指導論	小児保健			薬理概論
		保健科教育法4				
4年次	前期					
	後期	教職実践演習（中・高）				
	通年	教育実習論				
		教育実習				

様式第7号ウ

<心理共生学科> (認定課程:養教一種免)

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	大学生としての基礎能力及び教員を目指すための基本的資質の育成を目指し組織されたカリキュラムから、すべての学生が心理共生学科の学生としての自覚と誇りを持てることを目標とする。 また、教職課程履修の意義を認識し、自らの積極的な教職志望の意志を吟味するとともに、教育の理念及び歴史・思想並びに児童生徒の心身の発達及び学習過程に関する基礎知識を修得し、教職を志す意識の確立を目指す。 更に、教職に関する基礎的素養として、情報機器の操作を学び、修得する。
	後期	児童生徒の心理を理解し、生活を基盤とした福祉や、医療、保健についての知識や技術を学ぶとともに、教職を目指すことの意義、養護教諭としての職務、「教えること」と「学ぶこと」の基本的関係等、教育学の基礎理念を身につけ、自らの進むべき方向性を徐々に確立していくことを目標とする。 また、教職に関する基礎的素養として、外国語コミュニケーション、体育を学び、修得する。 なお、1年次終了時において教職課程履修記録を作成し、教職課程担当教員との個別面談により教職課程履修継続の意志を自ら確認する。
2年次	前期	学校保健や看護学、基礎医学についての専門的知識を修得すると同時に、学習指導要領を基準とした教育課程の意義や編成方法、教育方法の基礎的理論、学校における道德教育の意義を理解する。 また、日本国憲法の全体像や人権についての理解を深め、教職に就くにあたっての基盤を固める。 さらに、学校教育現場を知るための体験としてスクールボランティア等に自主的に参加する。
	後期	養護教諭として必要な専門的知識を修得すると同時に、教育や心理・福祉分野における諸問題の存在を理解する。 また、特別の支援を必要とする児童及び生徒に対する理解を深め、特別支援教育に関する制度や教育課程、教育的ニーズ、支援の方法等を理解する。 年度末の教職課程履修面談において自らの適性、学校保健・学校看護の専門家である養護教諭を目指すことの再確認を行い、自らの進路の方向性を決定する。
3年次	前期	病院での看護臨床実習を行うことによって、医療の現場における看護の実際を体験し、養護教諭として必要とされる基礎的看護能力を養う。健康上の問題を持つ対象・家族の療養環境、安全、安楽・自立を考慮したコミュニケーション方法を実践の場で学ぶ。学校と医療機関の連携について考えを深めることができることを目標とする。 また、教育課程における生徒指導の意義や原理、学校における生徒指導の進め方や教育相談の意義と理論を理解する。 更に、スクールボランティアへの参加などを通じて、学校教育に参画する意識を高めたうえで、4年次の教育実習に向け、教育実習の準備を行う。
	後期	養護教諭に必要な専門的な知識を身につけると同時に、多職種連携教育を通して、心理や福祉の職種の専門性を理解したうえで協働する力を持った社会人として、学校や企業や地域社会の発展に発揮できる人材になる。 学校における特別活動及び総合的な学習の時間の意義及び内容、学校と地域との連携、学校安全等について理解する。 教職課程担当教員による履修面談により、教職課程及び教育実習の意義とその責任を自覚したうえで、意欲的に教育実習に臨むことができる準備ができていることを目標とする。
4年次	前期	協力実習校における教育実習を通して学校教育の実際を体験的、総合的に理解し、実践的な能力を身につけるとともに、教員免許取得までにさらに修得すべき知識・技能を理解する。 教育実習の事後指導や教職課程面談により、自らの教職志望を最終確認するとともに、教育専門職である教師を多面的に理解し、教育現場に進んでいこうとする心構えができていることを目標とする。
	後期	4年間にわたる教職課程での学びの最終段階として教職実践演習(養護教諭)を履修して、自己の課題を自覚し、さらに必要な知識・技能等を補てんすることにより、養護教諭として求められる使命感や責任感、教育的愛情、社会性や対人関係能力、生徒理解等を身につける。 本学の教育理念及び教員養成理念に照らして最終確認を行い、教職課程を修了し、学位を取得する。

様式第7号ウ（養護）

<心理共生学科>（認定課程：養教一種免）

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
年次	時期	教育の基礎的理解に関する科目等	養護に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
1年次	前期	教育原論	解剖生理学		運動と健康科学	心理学と心理的支援
					英語 I A1	ソーシャルワーク概論
					英語 I A2	学校保健概論
					情報リテラシー	
	後期	教職論	養護概説		スポーツ実践	心理学概論
		教育心理学	人体生理学		英語 I B1	社会福祉原論
			臨床医学概論		英語 I B2	
2年次	前期	教育課程論	学校保健	人権教育論	日本国憲法	保健科教育法1
		道徳教育論	微生物学			
		教育方法論(情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む。)	看護学 I			
			免疫学			
	後期	特別支援教育論	栄養学			保健科教育法2
			精神保健 I			
			看護学 II			
			救急処置及び看護法			
3年次	前期	生徒指導論(生徒指導と教育相談)	公衆衛生学			保健科教育法3
		特別活動及び総合的な学習の時間指導法	看護技術 I			スクールソーシャルワーク論
			看護技術 II			学校救急処置
			精神保健 II			
	後期	教育行政学	衛生学			保健科教育法4
		養護教育実習論	健康相談活動論			スクールソーシャルワーク演習
			小児保健			
			薬理概論			
	通年		看護臨床実習指導			
			看護臨床実習			
4年次	前期					
	後期	教職実践演習(養護教諭)				
	通年	養護教育実習論				
		養護教育実習				

様式第 7 号ウ

<発達教育学部教育学科> (認定課程: 特支一種免(知・肢・病))

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	前期	大学生としての基礎能力や人間力を養成する科目に加え、今日の教育の現状や課題等を学び、教職への学びの方向性を見つけるとともに、特別支援教育を学ぶ意義を理解し、その意志を深める。 教育の理念や子どもの心理等、教育の基礎的理解に関する事項、教科に関する専門的事項科目の履修を始め、教職に関する基礎的素養として、外国語コミュニケーション、体育、情報機器の操作を身につける。
	後期	特別支援学校教諭の基礎となる免許状取得に向け、教育の基礎的理解に関する科目、教科に関する専門的科目の学びを深めると同時に、教職に関する基礎的素養となる科目(外国語コミュニケーション、体育)を学び、それらを修得する。 また、特別支援教育についての自主的、主体的な学習に取り組み、その姿勢と知識を身につける。 1 年次終了時には、教職課程履修記録を作成し、その学びを振り返ることにより、2 年次の修得目標を明確にする
2 年次	前期	特別支援教育についての基本的な理念、全体的な知識について修得するとともに、特別支援学校教諭の基礎となる免許状について、教育の基礎的理解に関する科目、教科に関する専門的事項科目、知的障害児、肢体不自由児の教育について学びをより一層深め、それらを修得する。更に、附属小学校で教育実習に取り組み、将来教員となることを意識して、子どもや教員、学校全体について理解を深めるとともに、附属小学校や公立小中学校、幼稚園でのスクール・ボランティアに参加し、教育の現場の状況を肌で感じ取る。 また、権利としての教育を規定した「日本国憲法」の全体像を学び、教職を支える法制度理念について理解し、教職に就くにあたっての基盤を固める。
	後期	特別支援学校教諭の基礎となる免許状に関し、教育の基礎的理解に関する科目、教科に関する専門的事項科目の学びをより一層深め、1 年次からの学びを含め、それらの全体像を理解する。 また、特別支援教育について、知的障害者、発達障害者や病弱者の理解を深める。 2 年次終了時には、教職課程履修記録を作成し、その学びを振り返り、今後の教職への学びに役立たせる。
3 年次	前期	特別支援教育の専門科目については、知的障害児、病弱児の教育について学び、特別支援学校教諭の教員免許の領域の全体をひととおり修得し、4 年次で取り組む教育実習に備える。聴覚障害及び重複障害に関する知識や教育について修得する。 また、特別支援学校教諭の基礎となる免許状に関し、学校における特別活動及び総合的な学習の時間の意義及び内容、学校における生徒指導の進め方や教育相談の意義と理論を理解するとともに、特別支援学校教諭の基礎となる免許に関し、教育実習を行うことにより実践を通して学び、さらにそれらをもとに大学での理論的な学びを深め、教育現場で現実的に活躍することの出来る人材となることを目指す。
	後期	特別支援教育における「免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域」として、視覚障害に関する知識を修得する。特別支援教育の専門科目については、肢体不自由児に関する知識や教育についてさらに学びを深める。 また、スクールボランティア等を通して、引き続き学校現場とかかわり、大学での理論的な学びと往還させることにより、生きて働かせることのできる理論・知識・技術を身につける。 3 年次終了時に、教職課程履修記録を作成し、その学びを振り返り、今後の教職への学びとりわけ理論と実践を往還させた学びに役立たせる。
4 年次	前期	教職課程面談により、自らの教職志望を最終確認する。これまで修得してきた理論をもとに、特別支援学校における教育実習に取り組む。教育実習を通して、障害児の現状や教育課題を現実として理解し、その後の大学での学びに活用する。また、スクールボランティア等を通して、引き続き学校現場とかかわり、大学での理論的な学びと往還させることにより、生きて働かせることのできる理論・知識・技術を身につける。 自らの進路を明確に見定め、卒業論文の作成や多様な体験、人間力の養成等、広い視野に立って進路に向けた学びを充実させる。
	後期	4 年間にわたる教職課程での学びの最終段階として、基礎となる免許状に関する教職実践演習を履修して自己の課題を自覚し、さらに必要な知識・技能等を補てんすることにより、教諭として求められる使命感や責任感、教育的愛情、社会性や対人関係能力、生徒理解等を身につける。 本学の教育理念及び教員養成理念に照らして最終確認を行い、教職課程を修了する。

様式第7号ウ（特支）

＜発達教育学部教育学科＞（認定課程：特支一種免（知・肢・病）（基礎免許状となる課程：小一種免）

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		基礎となる教諭の免許状に関する履修カリキュラム			特別支援教諭免許状に関する履修カリキュラム	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期	教育の基礎的理解に関する科目等	教科（領域）に関する専門的事項	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	特別支援教育に関する科目
1年次	前期	教育原論	算数科教育内容論	人権教育論	運動と健康科学	
		教育心理学	体育科教育内容論		英語ⅠA1	
		特別支援教育論			英語ⅠA2	
					情報リテラシー	
	後期	教職論	国語科教育内容論		スポーツ実践	
		教育方法論（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む。）	生活科教育内容論		英語ⅠB1	
			社会科教育内容論		英語ⅠB2	
		算数科教育方法論				
2年次	前期	教育課程論	音楽科教育内容論		日本国憲法	特別支援教育総論
		道徳教育論	図工科教育内容論			知的障害教育論
		国語科教育方法論	理科教育内容論			肢体不自由教育論
		社会科教育方法論	家庭科教育内容論			
		生活科教育方法論	外国語科教育内容論			
	後期	教育行政学				知的障害者の心理・生理・病理
		音楽科教育方法論（小中）				病弱者の心理・生理・病理
		理科教育方法論				病弱教育論
		図工科教育方法論				発達障害者教育総論
		家庭科教育方法論				
	通年	外国語科教育方法論（小中）				
		教育実習論（幼・小）				
		教育実習（幼・小）				
3年次	前期	特別活動及び総合的な学習の時間指導法				知的障害者の発達と教育
		生徒指導論（生徒指導と教育相談）				病弱者の発達と教育
						重複障害者教育総論
						聴覚障害者教育総論
	後期	進路指導論				インクルーシブ教育論
						肢体不自由者の心理・生理・病理
						肢体不自由者の発達と教育
						視覚障害者教育総論
	通年	教育実習論（幼・小）				
		教育実習（幼・小）				
4年次	前期					
	後期	教職実践演習				
	通年					特別支援学校教育実習論
						特別支援学校教育実習